

# 風車のある風景

絵と文・熱田親憲 題字・熱田秦華

## 熊野古道

みちのく

50

熊野古道の探索で和歌山をJRや車で往復に大きな風力発電の風景

車がゆっくり回っている風景を目にするようになった。

私が風力発電に関心を持ったのは、2005年2月に地球環境問題をテーマにした国際会議COP3で温室

効果ガス排出削減目標を定めた「京都議定書」が発効されたのがきっかけだった。11年

の東日本大震災で、原発の安全性に疑問を持たざるを得なくなり、

そう遠くない将来に地下資源は枯渇するであろうという現実を併せて考えると、再生可能エネルギー、中でも風力の利用は必須だろ

う。

初めて風力発電と遭遇したのは5年ほど前、淡路島南端にあるホテルニューアワジラザ淡路島を訪ねた時だった。ホテル手前の小高い丘で大きな風車が1基ゆっくりと回っていた。地の利を生かした発電とビューポイントづくりのため設置したことだが「今では温室効果ガス削減につながり、ホテルの

経営安定にも貢献しているのでホッとしている」と話した社長の笑顔が忘れられない。

その東の対岸に位置する和歌山では、3年ほど前、有田川町の鷲ヶ峰に登り、そこから尾根伝いに並ぶ風車の列を見て、未来のエネルギー源となる可能性を強く感じた。

この一帯は9×10キロの風が年間を通して安定して吹き、交通の便がよく、送電系統にも恵まれている。だが

この一帯は9×10キロの風が年間を通して安定して吹き、交通の便がよく、送電系統にも恵まれている。だが

この一帯は9×10キロの風が年間を通して安定して吹き、交通の便がよく、送電系統にも恵まれている。だが

この一帯は9×10キロの風が年間を通して安定して吹き、交通の便がよく、送電系統にも恵まれている。だが

この一帯は9×10キロの風が年間を通して安定して吹き、交通の便がよく、送電系統にも恵まれている。だが

この一帯は9×10キロの風が年間を通して安定して吹き、交通の便がよく、送電系統にも恵まれている。だが

この一帯は9×10キロの風が年間を通して安定して吹き、交通の便がよく、送電系統にも恵まれている。だが

この一帯は9×10キロの風が年間を通して安定して吹き、交通の便がよく、送電系統にも恵まれている。だが

## 静と動の近未来的空間

する産業技術政策課を訪ねて、その分布を俯瞰してもらった。現在稼働しているのは、和歌山市1、有田市1、広川町37、有田川町10、日高町1、由良町5、日高川町10の計65基。総出力は約9・5万キロワットとなっている。

自然生態系を利用することに長けている和歌山県人だが、ほとんどは自家用ではなく、

計画は、原生林や希少生物、人家への騒音などの影響や景観法に抵触しないかなども入念にチェックしつつ進めるといふ。特に世界文の気性に似合っている。白浜温泉は地熱エネルギー開発の可能性を秘めている。和歌山が再生可能エネルギーの宝庫となっ

てほしいと心から願いつつ県庁を後にした。

春の尾根ゆっくり回る風車あり

秦華

秦華

# 和歌山

### 和歌山支局

〒640-8154 和歌山市六番丁5

歌山第一生命ビル4

E1 3(431)1411

AX 3(433)0650

mainichi.co.jp

【通信機関】

橋本 0736(32)0063

御坊 0738(22)2511

和歌山 0736(32)1000

地域面

2017年(平成29年)2月23日(木)

毎日新聞

(左から)内原王子神社(日高町)付近と広八幡神社(広川町)前から望む風車の風景



春の尾根ゆっくり回る風車あり 秦華